

# アユ小糸網漁業操業マニュアル

(沖島漁協の事例をもとに)

## はじめに

本マニュアルは、アユ小糸網漁業の技術継承を目的として、沖島漁協の漁業者数名に協力していただき、4シーズンにわたって操業場所や網の設置水深などを記録することで、それらの季節的な特徴を「見える化」するとともに、操業に必要な装備や資材、操業の始まりから終わりまでの作業工程を聞き取りして取りまとめたものである。

操業に用いる装備は、漁船の大きさや操業形態(操業人数)によっても異なるので、4トン程度の漁船を用いて二人で操業する事例である。漁場の季節的变化は、沖島漁協の事例のみであるが、アユの群れの探し方や、操業場所の季節的な移動(沿岸域→沖合)、網の設置水深と水温との関係は、どの水域でも活用できる情報として参考にしていただきたい。

# 1. 操業の準備

## (1) 漁業許可の取得

- ・アユの小糸網漁業を操業するには、「刺網漁業」の許可が必要であり、本許可を受けてから操業する必要がある。
- ・本許可は、船舶ごとに許可を受ける必要があり、許可証に記載されていない船舶を用いて操業はできない。また、許可の定数、申請期間等も決められている。

## (2) 漁船の準備

- ・やぐら、作業用照明、ラインホーラー(網あげ用)、冷水機付きタンク、小糸網吊るす用のフック(油圧式)、ネット、魚群探知機、レーダー(夜間操業のため)など(設置状況については下記写真参照)

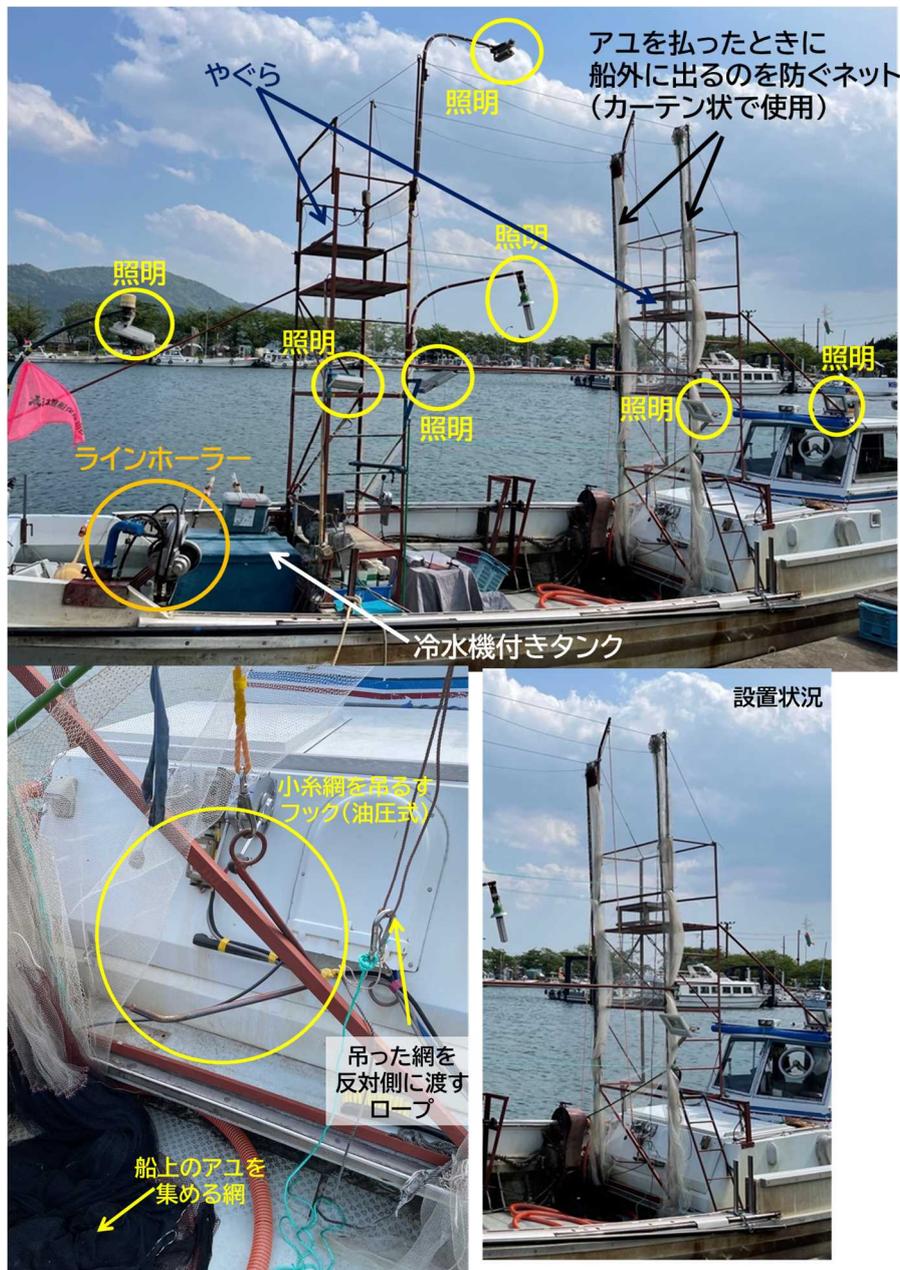


写真1. アユ小糸網漁船の装備

### (3) 漁具 (写真2、図1参照)

- ・網 目:23 節(1.4 cm程度)~18 節(2 cm程度)
- ・網 長:30~35m/把
- ・網 丈:4~4.5m
- ・糸の規格:0.4 号(昔は 0.3 号であったが製造中止)
- ・必要な把数:1 回の操業あたり 8~15 把(3 把分を1きりとして使用)
- ・沈子コード:50g/m のもの
- ・浮 き:大(おお)うけ(網 3 把分(1きり)の両端に 2 個)、  
小(こ)うけ(網 1 把分に 3 個)
- ・ブ イ:夜間光るものを全網の両端に 1 個ずつ
- ・ロープ:いかり縄(アンカー用)6 mmロープ、小うけ 2~3mmのポリロープ、  
手縄 5 mm程度のポリロープ
- ・アンカー:5 きり分として6つ。湖流が早いときにも流されないように大きめ。



写真2. 漁具

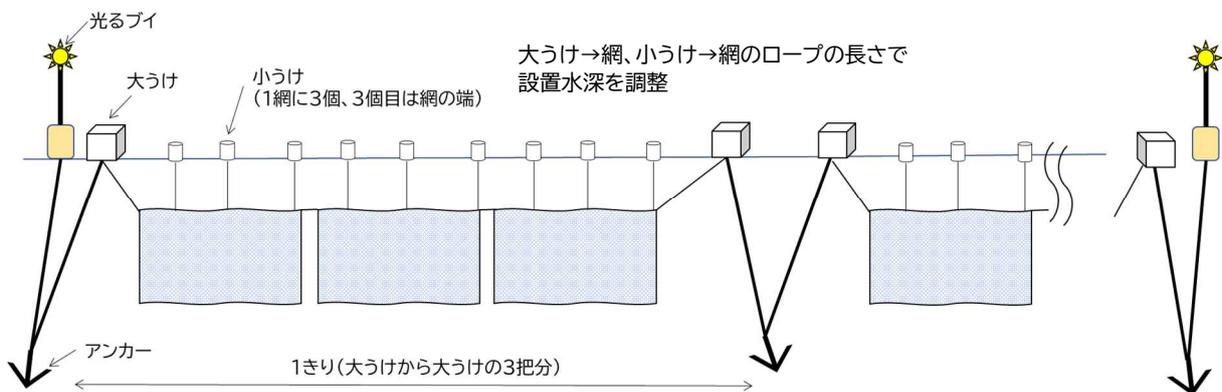


図1. 漁具設置図

## 2. 操業時期と操業場所

- ・操業の盛期は4月から8月。操業場所は、次第に岸寄りから沖合へ移動。
- ・6月以降は水深20～30mの場所で操業。

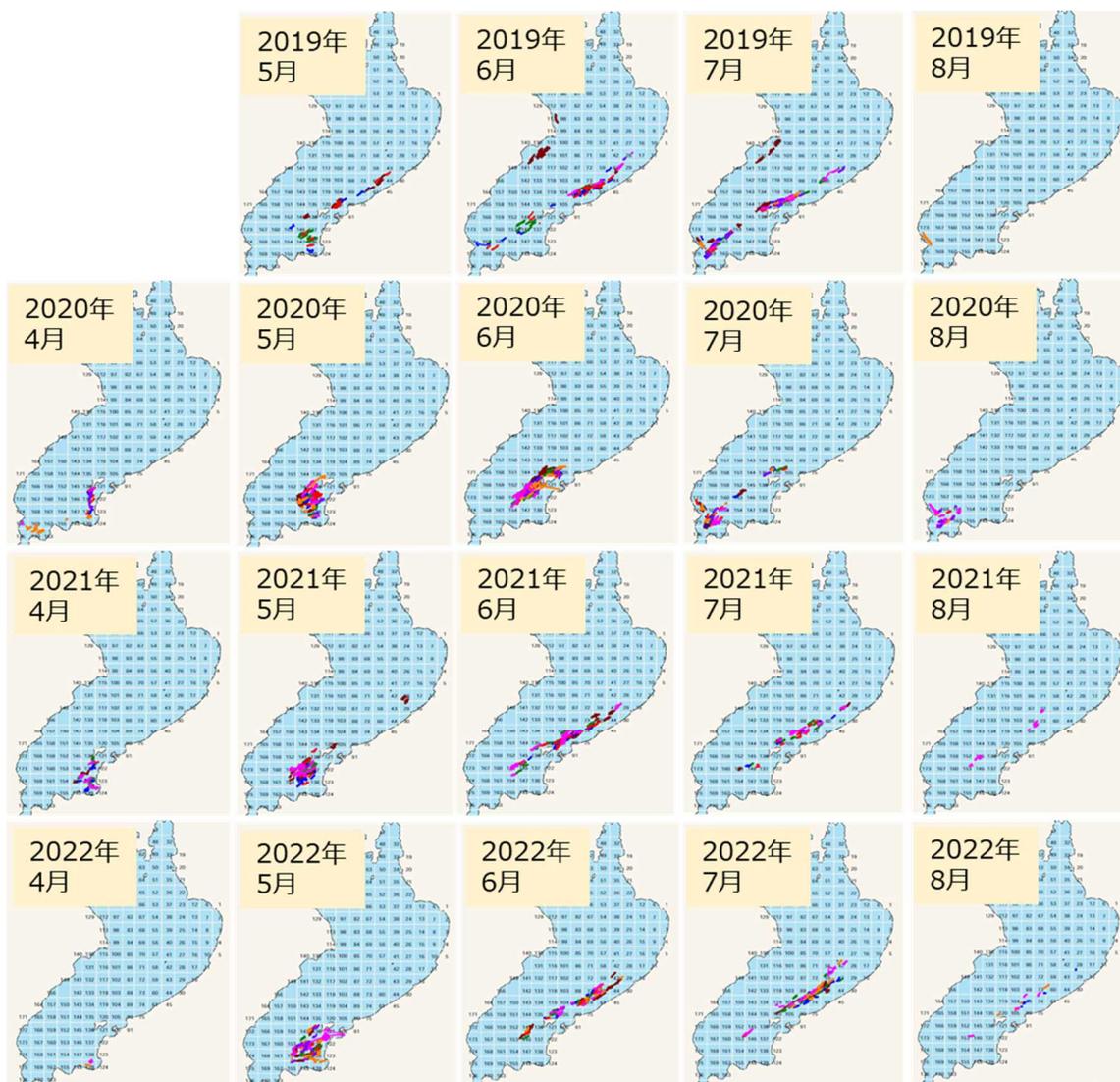


図2. アユ小系網操業場所

## 3. 操業技術

### (1) 操業スケジュール(出港から帰港まで)

23時:出港

0時～:網入れ

2時～:網上げ

3時～:アユを外す払い(30分くらい)

選別、ゴミとり、洗浄→冷却

5時半～6時半:アユの受け渡し

7時:帰港

帰港後:網の手入れ

## (2) 操業工程

### ① 網目の決め方

- ・佃煮に向くサイズを漁獲するため、漁期スタートは23節で操業している。その後、アユの成長に合わせて網目を少しずつ大きくしている。7月以降の漁期終盤でも18節まで。(それ以上大きな網目は佃煮に向かないので、買い受け業者の要望があれば使用する程度)

### ② 操業場所の決め方

- ・操業場所のおおまかな選定(沖島からの漁場に向かう方向)は、これまでの経験やその年の漁獲の状況から判断している。
- ・実際に網を入れる場所の選定は、魚群探知機によるアユの魚群を確認したところに入網。漁期当初は水深の浅いところが漁場になるため、ライトによる飛び跳ねなどの目視も判断の材料としている。

### ③ 網の入れ方

- ・網は湖流の流れに沿って上流側から船を後進させながら入網(図3)。この際に網を張りながら入れることが重要。流れの方向の判断は、船の流れ方や他の漁船の網の入れる向き、既に設置してある漁具のブイの傾きなどから判断。
- ・網を入れる水深については、魚群探知機による魚群の水深に設置するが、4月、5月は水深2~5mに、6月以降は水深8~14mくらいに設置している(図4)
- ・水温躍層(水温が急激に変化する層)が形成された7月以降は、アユが水温躍層のすぐ下層にいることが多く、水温躍層付近に網の上端がくるように設置している(図5)。



図3. 入網方向の事例

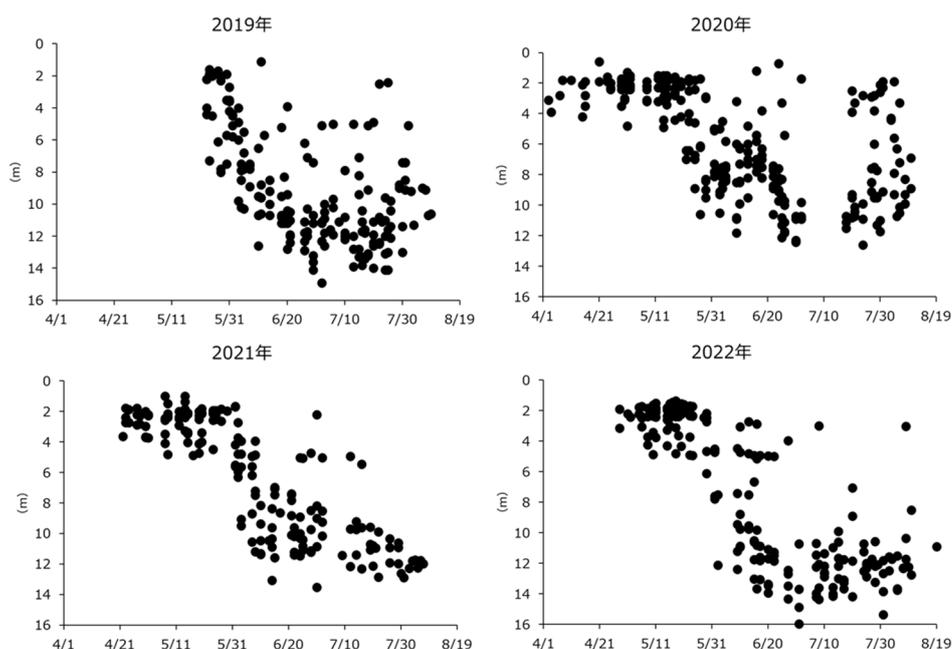


図4. アユ小糸網設置水深

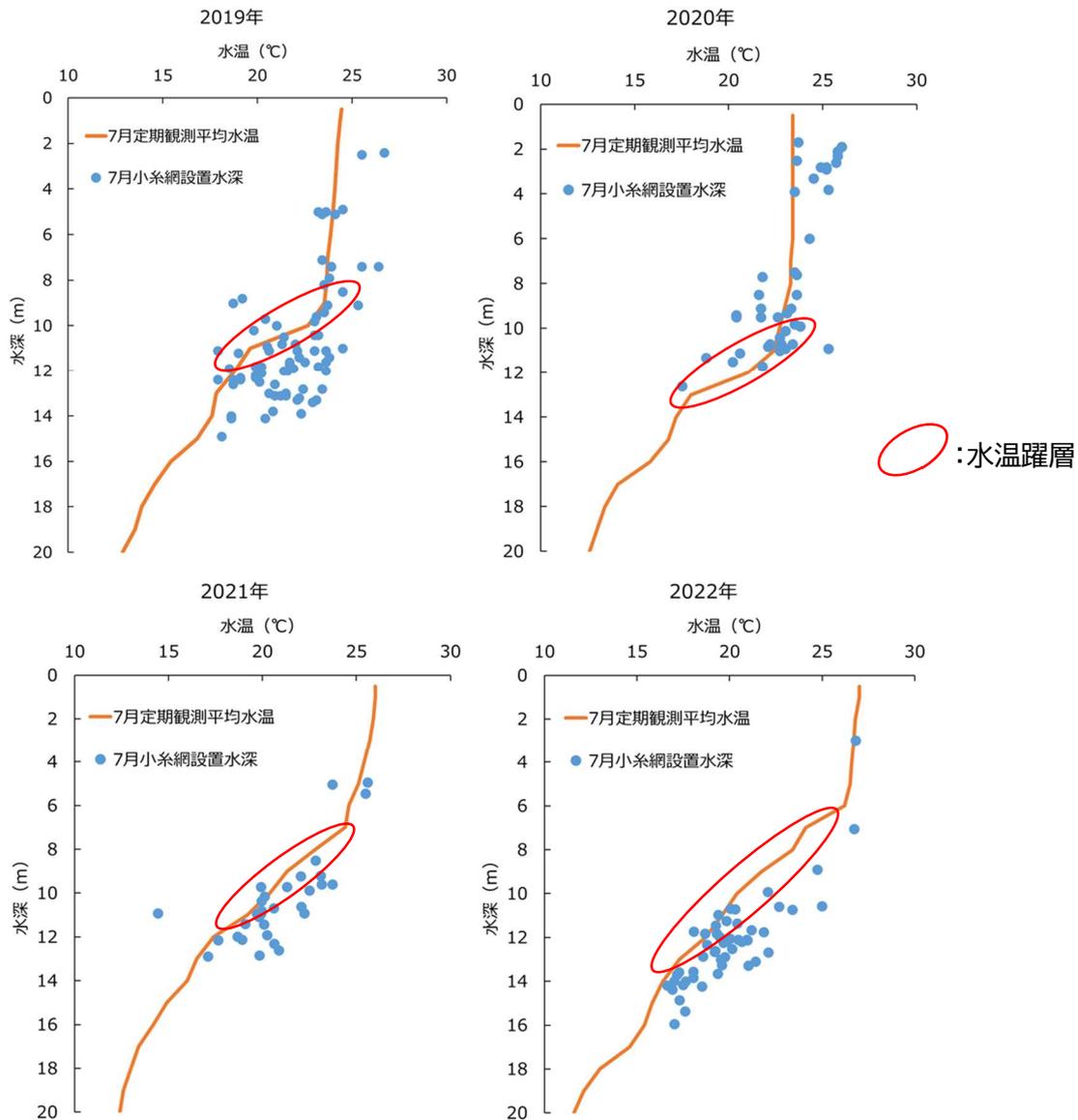


図5. 網の設置水深と水温の関係(7月)

#### ④ 網の揚げ方、魚の外し方

- ・網は湖流の流れの下流側から船を前進させながら網をあげていく(図6)。
- ・網をつけている時間はおよそ1.5～2時間くらいであるが、入れているときからアユがついているようなときはすべての網を入れ終えてからすぐあげるようにする。
- ・すべての網をあげ終えたら、フックで小糸網を吊り上げ、順に広げながら網を払って(引っ張って揺らして)、網を敷いた船上にアユを落とす(写真3)。

### ⑤ 魚の取り扱い

- ・ゴミや他の魚を選別した後、アユを湖上や船上で洗浄したあと、冷水機で水温2, 3度に設定した水で冷却し、鮮度を保持する。
- ・冷やしたアユを業者に引き渡す。

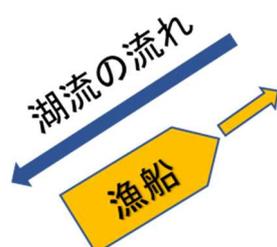


図6. 網あげ方向



写真3. アユを外す様子

### (3) 操業後の作業

- ・帰港後は、網の手入れを行い、次の操業に備える。
- ・湖レコによる漁獲報告



### (参考)アユ小糸網漁業動画

- ・滋賀県漁業協同組合連合会 [http://www.jfshiga.com/douga\\_ayukoito.html](http://www.jfshiga.com/douga_ayukoito.html)
- ・小鮎漁 Okishima <https://youtu.be/p1BjOf1Z5kA>

**【発行】 滋賀県農政水産部水産課**  
令和5年(2023年)3月

本マニュアルは、2019年度～2022年度の琵琶湖漁業 ICT 化推進調査事業の事業成果をもとに作成されました。